

大正時代の遊郭をリノベーション「登録資産 52 号：蕎麦伊とう」!

中村区大門は、かつては、かなり大規模な遊郭街だったようです。前身は、大須にあった旭遊郭。大正12年に現在地へ移転し、外周を濠で囲った八角形の廓は、吉原を模したものでした。今でも、その街路形状に、その当時の面影が残ります。

昭和33年の法施行により、遊郭は姿を消すことになりましたが、「旧松岡旅館」は、当時の建物を活用してデイサービスセンターとして再活用されており、全国的にも稀有な例だと思います。「旧松岡旅館」やジュディオングも訪れた「稲本」などは、景観重要建築物に指定され、地域の個性として、現在の大門界隈を彩っています。



この大門界隈で、新たに、大正時代の遊郭をリノベーションし、本格蕎麦屋として平成24年4月に再生されたものが、写真の「蕎麦伊とう」です。この建物は、市の登録地域資産第52号に登録されています。

趣のある破風の下にかかる大きな暖簾をくぐると、中は、しっとりと落ち着いた内観にリノベーションされていました。ベんがら色の内壁とアンティークな柱・梁、そしてレトロな時計などなど、趣のある雰囲気一杯です。昔の揺らいだガラス越しに見る中庭もなかなか素敵です。



本格蕎麦を中心にしたメニュー構成で、ワインなども楽しめ、BGMにはムーディなジャズが流れ、庶民的な雰囲気一杯の大門にいることを忘れてしまいそうでした。時代を超えた異次元にいるような不思議で高級な空間で、本格蕎麦を一度味わってみてはどうでしょう?

(TAMA (*^_^*))